



朝夕の寒さが増すとともに、一日一日冬が近づいています。学園前の桜並木は今年もまた美しく色づき、鮮やかな彩りを見せてくれました。ふと路上に眼を落とすと、落ちた葉の一枚一枚にも実に様々な色の重なりがあり、そこにもまたひとつの完璧な世界があることに驚かされます。小さな葉の一枚一枚、それぞれに全く異なるひとつの美しい世界が、連なって一つの木の彩りとなり、その木々の立ち並ぶ姿がまたさらに大きな一つの色の移り変わりを見せてくれているようです。それはまるで、そのままこの世界の在り様のようだと、桜並木を眺めながら感じたりしています。

【6年生 奈良歴史旅行】



10月30日から二泊三日で、奈良の歴史旅行を行いました。6年生の日本史で取り上げた飛鳥・奈良時代は、外国から仏教が持ち込まれ、仏教を中心に新しい国づくりが進められていった時代です。今なお当時の姿を残す仏像や寺院を通して当時の文化に触れ、教室で学んだことを実際に肌で感じてもらうと、10名の子どもたちと出かけてきました。

初日には東大寺を訪れました。事前に学校で実物大の大仏の顔を作り、皆で開眼供養会を行いました。奈良時代にあれほど大きな大仏をつくるのは並大抵のことではなかったはずですが、それだけ国を治める者が仏教を信頼していた時代、その時代の人々の思いを子どもたちは少しでも感じ取っていたのでしょうか。実際に大仏を目にすると、その大きさに驚く子、想像より小さかったと感じた子と様々でしたが、大きさとともにその表情に感じるものがあったようです。その後訪れた興福寺の阿修羅像の表情も印象的で、その得も言われぬ佇まいに子どもたちは見入っていました。その夜は、宿で東大寺を案内してくださった飯田むつみさんによるフランス・シターの演奏で締めくくられました。一日たくさん見て歩いた疲れを感じながら、優しい音色にじゅくじゅくと聴き入りました。

二日目は時代をさかのぼり、明日香村をサイクリングしました。秋の風が気持ちよく、山あいの小道を走っていると所々にコスモス畑が広がっていました。明日香村には、前日に触れた仏教文化よりももっと素朴な雰囲気があります。畦道の脇に突然、ぼこっといびつな形をした大きな石が現れます。石には何とも不思議な表情の生き物が彫り付けてあり、これを彫っていた飛鳥時代の人々とはどんな人たちであったのか、自然と当時に思いが馳せます。大化の改新の舞台となった板蓋宮跡で、子どもたちは入鹿と中大兄皇子の寸劇を繰り広げていました。その後甘樫丘に上って蘇我氏になった気分眺望を楽しみ、明日香村を後にしました。夕方はお楽しみのお買い物タイムです。班に分かれ、駅前のアーケードを行ったり来たりしながら、家族へのお土産、自分の気に入ったものをお財布と相談しながら入念に選びました。宿に帰り、夕飯は皆でお鍋を囲みました。湯気で頬を赤くしながら、口々に「明日はもう最終日か〜。」と時間が過ぎるのを惜しんでいました。

最終日は法隆寺を訪れました。最古の木造建築は美しく、広い境内は見るものの宝庫です。ボランティアガイドの方に二時間半かけて案内していただきました。それでももっとじっくり見たいという子もいたほど、魅力的な寺院でした。

しかし何よりこの奈良旅行の一番の収穫となったのは、クラスメイトとの仲が前よりいっそう深まったことかもしれません。一人ひとりの胸に、みんなでもっとも楽しい時間を過ごしたという思い出が残った、大満足の歴史旅行となりました。

(6年生担任 太田初)

マルティン祭に参加して

1年で最も暗くて寒い冬だからこそ、私たちの内側には明るさとあたたかさを携えていたい。学園では、毎年この時期に、聖人マルティンにちなんだ祝祭を行います。参加した2年生保護者からのレポートです。



一日一日と、日が短く夜が長くなっていくのを感じる季節、外では暗闇と寒さが増していきますが、心の内側では光と温かさが増していき、そんな時期なのだそうです。

11月16日(金)外が薄暗くなる頃、学園に1、2年生の子どもたちが集まってきました。少し落とし気味の照明のいつもと違う雰囲気のおひさまの部屋で、子どもたちは時にはひそひそと話しながら静かに待ちます。

暗闇の中、静けさを味わい、光を感じる祝祭、マルティン祭が行われるのです。

保護者はオイリュトミー室に移動し、子どもたちを待ちます。ライアーの音色が静かに響く中、部屋の中央に置かれた一本のろうそくに火が灯されました。たった一本のろうそくの小さな火が星のように光り輝きました。ろうそくの火ってこんなに綺麗だったのかと、その輝きに見とれていると、子どもたちが自分で作ったランタンを手を持って入ってきました。先生の素話のあと、中央のろうそくの火が分けられ、ランタンひとつひとつに火が灯りました。♪ランタンを持ってゆこう～歌を歌いながら校庭まで移動し、練り歩きます。響く子どもたちの歌声、揺れるランタンの光…とても美しく幻想的な光景でした。その後、1、2年生それぞれの教室に戻り、先生のお話のあと、聖マルティンの歌に合わせて、マルティン役の男の子がマントを刀で2枚に切り裂き貧しい男役の女の子にマントを付ける寸劇があり、そのあとみんなでパンを分け合って食べました。

この行事を見守る中で、教室がとても温かなもので満たされているなあと感じた瞬間がありました。何かとても大きなものに包まれ守られている、と。

あの空間を丸ごと体験したこどもたちは、心の奥の芯の部分に温かいものと分かち合う精神をしっかりと受け取った、そんなふうに感じました。

実はこの数日前、4年生の女の子が2年生から転入した娘に「マルティン祭に間に合ってよかったね」と言ってくれたことがありました。彼女の心の中には、きっとあの美しい光景と温かな空気がしっかりと刻まれているのでしょう。それを体験できないなんてもったいないと思っている、というのがよくわかりました。

娘も、そして私もマルティン祭を経験できたことは大きく、本当に良かったと思いました。大きな愛と温かな光を受け取ったこどもたちは、きっと温かな世界をつくっていく、そんな希望も感じた祝祭でした。

(2年保護者 岡崎真木子)



アドヴェントを迎える

たくさんのお客様をお迎えする「アドヴェントのつどい」は、いよいよ12月2日（日）。みなさまどうぞ遊びにいらしてくださいね。さて、保護者たちの準備も大詰めです。11月14日には、準備のための全体ミーティングが行なわれました。

.....



本当に、保護者がつくりあげる学校なんだなあ、とつくづく思う。

ここ横浜シュタイナー学園では、季節の祝祭をはじめ、学園で開催されるほぼすべての催しに保護者の密な関わりが必須である。NPO 法人の学校なのだから当然といえば当然の話だが。その中でも春のオープンデイ、冬のアドヴェントのつどいと、年二回の一般公開イベントは、学園をまだ知らない一般の方々にもシュタイナー教育を体感してもらうことができる数少ない機会として、計画も準備もさらに念入りなものとなる。

二学期は子どもたちにとってももちろん充実の時期だ。3年生の稲刈りや家づくり、初めての外泊体験である5年生の山の学校、1、2年生だけが体験するマルティン祭などもすべて二学期の行事だ。今年は、9年制教育の学びの締めくくりともいえる8年生劇も予定されている。この時期の学園保護者たちの辞書に『暇』という文字はなく、その手帳にはびっしりと予定が記されていることだろう（… たぶん）。

そんな二学期もいよいよ終盤にさしかかる12月2日（日）、冬の一般公開イベント『おやこでむかえる アドヴェントのつどい』がついに開催となる。

11月に入り、最終打ち合わせのためのミーティングが開かれた。当日、学園で体験できるのはふわふわの羊毛をつかったワークショップや、落ち葉を踏みしめながら静かに体験する蜜蝋ろうそくづくり。淡々とした語り口の静かな人形劇は毎年大好評で、開場とともにチケットがなくなってしまうこともある。

1階カフェと販売ブースには毎年手づくりのお菓子と雑貨が所狭しと並び、大盛況となる。眺めるだけでも嬉しい、美しいヘクセンハウス（クッキーハウス）や、厳選された材料で丁寧にこしらえたお菓子。暖かな毛糸やふわふわの羊毛で丹念につくられた小物など、他ではなかなか手に入らないものも実は多い。この学園のお母さんの手づくりの完成度は半端ないのだ。ここ数年はオトナ買いして帰られるお客さんも少なくはない。カフェでは温かく滋味あふれるやさしいスープ、校庭のお父さんカフェでは今年の新しい試みとして羊飼いのシチューをふるまうことになった。

書き出せばきりがなくらい、この『おやこでむかえる アドヴェントのつどい』というイベントは、学園の『手づくり』が堪能できる一日だ。それはそのまま、この学園の教育が子どもの中に育むもの～手間暇をかけることの確かさ・暖かさ～を体現している一日、ともいえるだろう。訪れた人の心にそんなほっこりとした小さな温もりを手渡すことができれば、その温もりを頼りに今度はまた違う場所で集うこともできるかもしれない。そうして少しずつ、共感する仲間が増えるといい。私自身そんな風に願いつつ、日々に追われながら準備にいそしむ学園保護者の一人である。

（5年生保護者 石倉義子）



みつろうろうそくを作る様子

インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

2 学期 月例祭

毎学期末に行う子どもたちの学びを披露する会です。ご希望の方に公開しております。ご興味のある方は、この機会にぜひご参加ください。

日にち：12月15日（土）

会場：緑公会堂

詳細は、学園サイトで公開していきます。

参観ご希望の方は、電話、FAX、またはメールにてお申し込みください。

おやこでむかえる アドヴェントのつどい

クリスマスをお待ちにする時期、美しく飾られた学園をお楽しみください。入場無料。どなたでもお越しいただけます。

日時：12月2日（日） 10:00～15:00

場所：霧が丘校舎

*詳細は学園 Web サイトでご確認ください。

同時開催： 学園紹介 in 十日市場校舎

12:30～15:30



2018 緑・芸術祭

《聖夜劇》 キリスト生誕劇

日時：12月23日（日） 13:30 開演
(13:00 開場)

会場：緑公会堂（緑区総合庁舎内）

観劇料：おとな 900円（高校生以上）

こども 600円（年長児～中学生）

*対象年齢 年長児以上

*対象年齢に達していないお子さんは入場できませんので、ご注意ください。

*観劇ご希望の方は、電話、FAX、またはメールにてお申し込みください。観劇料は当日受付でお支払いください。

校内見学会

ガイドツアー形式で学園内をご案内します。（正味1時間半）

日にち：2019年1月11日（金）

時間：15:30～

会場：霧が丘校舎

料金：無料（要予約）

お子様連れも可です。

※ お子様の上履きをご持参ください。

茶話会

学園でお茶を飲みながら、教員・保護者と、シユタイナー教育について聞きたいことをざっくばらんに話しませんか？

日にち：2019年1月20日（日）

時間：10:00～12:00

会場：霧が丘校舎

料金：無料（要予約）

詳細は学園 WEB サイトでご確認ください。

☆ 星の金貨より ☆

12月2日の『アドヴェントのつどい』では、クリスマスのお茶・アドヴェントカレンダー・ポストカード・麦わら飾り・オーナメント・蜜蝋キャンドルなど、素敵な品々をご用意してお待ちしております。どうぞお立ち寄りください。

お問い合わせ e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

ブログ <http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>



お問合せ、お申込み先

横浜シユタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シユタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番 029 支店名 029 店（せのきり店）当座 013702

ご支援ありがとうございます。
大切に活用させていただきます。

◎ ご寄付・・・足立久美子様、星の金貨様

心より感謝申し上げます。

横浜シユタイナー学園

～Newsletter 第116号～

2018年11月27日発行

編集： 広報の会

発行： NPO 法人 横浜シユタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※ 掲載内容の無断転載をお断りします